

令和 2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690100118
法人名	医療法人社団 萩野医院
事業所名	グループホーム おわら
所在地	富山市八尾町西町2386
自己評価作成日	令和2年8月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和2年9月14日	評価結果市町村受理日	令和2年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・八尾の旧町で唯一の介護施設として積極的に保育所や小中学校の訪問や実習の受け入れ、風の盆や曳山、坂の町アート等の行事に参加し、地域の方とより交流を図れるように努めている。また玄関脇の縁側をどなたでも自由に使うことができるように配慮しており、近隣住民の方の憩いの場や入居者様と友人、知人が気軽に会える場所としても活用している。  
 ・法人母体の萩野医院から定期的な訪問診療及び緊急時の往診が受けられるため、健康状態の把握や変化の報告がスムーズに行え、入居者様や家族に安心して生活して頂けている。また、本人、家族の希望に応じて看取りを行っており、重度化に際しては萩野医院、法人内の他事業所と連携を図り必要な助言、指導を受けられる体制を整え本人らしい最期を迎えて頂けるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

昭和23年に先代が萩野医院を開業した地で、理事長の生家をグループホームとして新築・運営している。先代の頃より、山懐の深い地域まで労をいとわず往診し「かかりつけ医」として地域住民を支えてきた。その頃から培われた、地域住民との繋がりがや信頼関係が今も続き、協力体制にも繋がっている。地域に暮らす人々を守りたいという思いで作られた施設には芸術的なネーミングで、第2、第3の人生をおしゃれに「ゆっくり 楽しく なごやかに」と、高齢者を敬い、愛する思いにあふれている。主治医が毎日のように施設に立ち寄り、急変時には夜間でも対応にあたっており、利用者だけでなく働く職員も安心して働ける恵まれた環境である。重度化や看取りに関しても、萩野医院や他事業所とも連携が図られ、大切な人を預ける家族にも安心感がある。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に一回理念についての勉強会を設けており、法人、事業所の理念の重要性について学んでいます。職員は理念を軸にケアに取り組めるよう、毎日、申し送りの時やカンファレンスの時に理念を唱和してからケアに入っています。	法人の理念「ゆっくり、楽しく、和やかに」を研修計画で学ぶ機会が設けられている。職員で考えた事業所目標は「みんなに やさしい心で 丁寧に」であり、カウンターなど目につく場所に掲示してある。毎日唱和してからケアに入っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は、坂の町アートや保育所、小中学生の訪問交流、防災訓練時に近隣住民の参加等行っていました。今年度は、新型コロナ流行の為、実施を見送っています。今後は法人本部、関係各所と相談しながら時期を見て再開したいと考えています。	地域とは施設の縁側での交流など、昔から続いている。コロナ禍での活動は、花火などこじんまりとできることから始めている。少し離れた所から地域の方も花火を見ていたり、いつの間にか自然に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年は、14歳の挑戦で中学生を受け入れ、昨年度の家族交流会で認知症についての勉強会を行いました。今年度は新型コロナ流行の為、法人本部、関係各所と相談しながら可能な限りの地域の方との交流を考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年は、第三者評価、実施指導、研修会、消防訓練、家族交流会、各季節の行事や取り組みについて報告し、意見や助言を頂くことでサービスの向上に活かしています。今年度は、新型コロナ流行のため、開催を見送っていますが、今後の状況を注視しており、9月からの開催を検討しています。	地域住民代表、行政サービスセンター所長、包括支援センター2か所、家族代表、有識者代表で構成され、新型コロナの影響で、今回は書面での報告を行っている。以前から活動報告会のテーマの提案を受けたり、自衛消防訓練、インフルエンザの予防接種など活発な意見交換が見られる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員に八尾行政センター、2か所の地域包括支援センターの管理者に参加して頂き、事業所の実情やサービスの取り組み等について報告しながら協力関係を築けるよう努めています。	2か月に1回の運営推進会議の他、いつでもお互いに相談できる関係性が築かれている。地域の困難事例に対しても協力し対応にあたっている。コロナの影響で日時は未定だが自衛消防訓練でも協力予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月毎に身体拘束についての勉強会を行い、身体拘束を行わないケアの重要性を確認、共有しています。また、常に入居者の心身の状態を把握して身体拘束に頼らないケアを提供できるようにチームで話し合い取り組んでいます。	身体拘束、虐待防止研修は5月に実施予定だったが、コロナの影響で6月に事業所で行った。通常は、指針を基に、身体拘束の適正化のための研修を3か月に一度行っている。身体拘束に頼らないケアのアイデアを職員が出し合い、事例について家族とも相談している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月毎に身体拘束の防止と併せて高齢者虐待防止法について勉強会を行っています。職員は、虐待防止の重要性を十分に熟知しており、声を掛け合い虐待の徹底防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護に関する制度について、説明を受けています。現在、各制度を利用されている入居者や家族はおられませんが、必要な時は地域包括支援センター等と協力し、権利擁護に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に家族に対して契約内容を十分に説明しており、納得の上で契約を締結しております。また、入居前や契約前に面談を行い不安や疑問に答えると共に、入居後もその都度相談に応じています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者のケアの様子や行事予定を毎月の通信で家族に報告しています。また、家族アンケートや家族交流会、日常の何気無い会話からも意見や要望を把握するように努めています。寄せられた意見や要望は、職員で話し合い運営とケアの改善に活かしています。	毎月の通信で家族に近況を伝え、家族アンケートは年に1度実施している。利用者の家族から、受付簿の行間の幅が狭くて書きづらいなどの要望にもその場で対応するなど、迅速で誠実な対応の様子がみられる。アンケート結果や要望は、職員で話し合い、ケアや運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務やカンファレンスの時に職員から意見や悩み、要望等を聞き、必要に応じて全体会議で話し合ったり、管理者、代表者に報告して意見や要望を運営に反映するように努めています。	新型コロナの影響で、全体会は開催できず、毎月の方針を理事長が出し、管理者から全職員に伝えている。カンファレンスノートを利用した提案の他、職員の要望は日々管理者が聴き、理事長に伝えるなど早めに解決するようにしている。職員からの要望のあった扇風機購入など、直ぐに取り入れた実績も見られる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の実績、勤務状況を把握しており人事考課しています。それらが給与や賞与、就業環境の整備に反映されており、職員がやりがいを持って業務に当たれるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者からの報告を受け職員の能力に合った研修が受けられるよう配慮しています。職員の質の向上の為に、年間の研修計画を立てて行っていますが、今年度は、外部の研修よりも事業所内で行う研修を中心に実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加するよう勧めしており、同業者と交流しサービスに関する情報を交換する機会を作れるよう心がけておりますが、なかなか難しい現状があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者と介護支援専門員を中心に入居前に面談を行う機会を設け、必要な情報を収集すると共に、入居後の生活における不安や希望を確認しています。また、必要に応じてホームを見学して頂くなど、本人が安心して頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後に家族と面談を行い、これまでの家族の苦労や負担を労うと共に、入居後の不安や要望を確認しています。また、その要望に対して行えるサービスを説明し、安心して頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に必要な情報を得ると共に、入居後一週間、重点的に全職員から日常生活の様子や問題等の情報を集め、ホームで生活を送るうえで必要な支援やサービスについての見極めを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な支援の関係にならないように本人の性格や能力を把握した上で、食器拭きや洗濯物畳み、各季節や行事のおやつ作りを手伝って頂いています。また、手伝って頂いた際には必ず助かった旨と感謝の言葉を伝えて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に職員が可能な支援、家族のみが可能な支援があり、本人を支える為には家族の協力が不可欠であることを伝えて頂いています。その上で本人の生活を支える為に何が必要かを家族と共に考え、話し合う様に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は友人知人、近所の方が面会に来られたり、表の縁側で自由に談笑したりするのが当たり前の日常でしたが、現在は原則面会禁止となっています。しかし、感染対策をした上で窓や玄関のガラス戸越しに顔を見て声を聞けるように配慮し、大変喜ばれています。	コロナ禍の中、終末期の利用者と家族の面会も、感染対策をした上で窓を開け、外から家族に顔を見せて対面し、柔軟に対応している。耳の遠い方や言葉がうまく出ない方にはホワイトボードを使い支援している。顔が見れて喜ぶ入居者や家族の様子を話す職員の笑顔も印象的である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知機能や性格、人間関係等を把握した座席配置を考え、洗濯物畳みやレクリエーション、行事に参加できるように配慮しています。また、認知機能が低下した方でも職員が声がけを頻回に行い、孤独を感じないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居や退居時には、支援経過等の記録は5年間保管しており、希望時にいつでも提供できることを伝えています。また、近所に住んでおられる家族も多く、地域の行事等を通して退居後の様子や困ったことを聞く様に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人及び家族にホームでの生活や支援についての希望を確認しています。意思表示の難しい方であれば生活歴や普段の生活の様子、言動より、本人の思いや希望を汲み取り、カンファレンスで支援の方法を検討すると共に、本人本位の支援や生活ができる様に努めています。	センター方式を使用し、家族の協力も得ながら昔からの習慣や好みの継続を支援している。入浴や排泄の介護については、男女共に本人の希望を尊重している。女性入所者が今まで100枚近く編んだという毛糸の座布団も、彼女の生きがい支援となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に管理者及び介護支援専門員が中心となり、本人、家族から情報を集めています。また、入居後も普段の生活の様子や関わりの中から生活習慣や暮らし方等を把握するように努めており、得られた情報は、申し送りノートやカンファレンスで共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	新規入居の方であれば、一か月重点的に関わり、現状の把握ができるように努めています。また、他の入居者については、その日のリーダーを中心に、一日の過ごし方や体調、様子を記録し、申し送りにて現状の共有を図っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前に本人及び家族から生活や支援の希望を確認しています。また、日々の関わりの中で本人の状態を把握し、申し送りやカンファレンスを通して現状に即した支援や方法をケアプランに反映し落とし込むように努めています。	本人、家族の思い、日々の関わり・申し送り・カンファレンスで確認できた支援方法もケアプランに反映している。職員のいろいろな意見を吸い上げ、話し合うことでより良いアイデアが浮かぶことから、チーム間の話し合いを大切にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	リーダーを中心に日々の様子や支援を記録しています。また心身の変化や課題、新たな支援方法等は、記録や申し送りノートを利用して情報の共有を図ると共に介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望により定期的に萩野医院のバスに乗り、リハビリを受けている方もおられます。また、萩野医院の理学療法士から生活機能向上のための助言をもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、近隣住民や各種ボランティア団体、小中学生の訪問等の受け入れや地域の行事、祭りに参加していましたが、今年は新型コロナの影響もありすべて中止となりました。今後は法人本部及び関係機関と相談しながら時期を見て受け入れを再開したいと考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くの入居者は入居前より萩野医院を受診しておられ、入居後も変わらず萩野医師をかかりつけ医として希望されます。当事業所も入居者が必要な医療を受けられるよう、普段から萩野医院と密に連携を図り、緊急時には、必要な助言や指示を受けられる体制を整えています。	主治医が毎日のように施設に往診に来ている。緊急時や夜間は、管理者が主治医に連絡し、主治医から指示がもらえる体制になっている。急な発熱や、食事が落ちた時など、些細なことも気軽に相談している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が毎日バイタルチェックや日々の関わりの中で体調や健康状態の把握に努めており、異常があった時は看護師及び萩野医院に連絡し、必要な指示や助言を受け処置を行える体制を整えています。また、家族の希望に応じて協力病院や専門科の受診ができるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はケアマネが情報提供を行っています。また、退院時は管理者及びケアマネが入院先の退院時カンファレンス等に参加し、状態の把握や支援方法等の助言を受けています。家族への支援として随時相談に応じ、再入居や状態悪化等の不安を軽減して頂ける様努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の意向を家族に確認しています。実際に看取りに入った時は、医師から家族に本人の状態の説明があり、家族に再度終末期の意向を確認します。その上で当事業所で行う支援や医療との関係について説明し、同意を得て看取りのプランの作成、実施に移しています。	契約時に、重度化した時に出来ることを記載してある指針「看取り」に関する書類に記入し、看取りに関する説明は医師が行っている。終末期の職員研修は年1回行っているが、萩野医院のバックアップもあり、それが職員の不安を軽減し、看取りのスキルの向上に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は、AEDを使用した法人内の救命講習や感染症対策の講習に積極的に参加し、緊急時に必要とされる技術や知識の習得に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新職員を中心に、全職員が年2回の避難訓練に参加しています。全職員がどのような状況でも役割をこなし対処できるように訓練毎に担当を変えて行っている他、入居者の見守り役で近所の方にも参加をお願いしています。訓練の様子や結果は、運営推進委員会等で報告しています。	火災訓練を年2回行っており、新人職員を中心に、全職員が参加している。地域住民も玄関で見守るなど協力体制がある。ハザードマップで危険区域にはなっていないが、毎年9月に非常持ち出し袋の中身の見直しをしている。備蓄は、水と氷砂糖、電池、紙コップなど準備されている。	近年の異常気象や今後の災害で、道路や橋が使用できなくなる可能性も否定できない。そのような場合に備え、備蓄品を見直す際に検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心理的身体的に適度な距離を保ちながら一人ひとりの人格や誇り、プライバシーに配慮した言葉掛けや接し方をするように努めています。また、事業所の理念である「みんなに やさしい心で 丁寧に」を実践できる様、思いやりを持ってその人らしく暮らせるように支援しています。	職員自身、第二の我が家や、家族のような近さを感じていることもあり、言葉遣いに気を付け、一人ひとりに配慮した態度で接するように心掛けている。毎年法令順守、プライバシーの研修を行い、マニュアルのチェックや振り返りをカンファレンス時に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時のお茶の時間や入浴後に飲み物の選択をして頂いています。常に声掛けによる確認を心掛け、本人が納得して自己決定できるように支援しています。自己決定が困難な方に関しては、表情や細かい変化に気を配り本人の希望を汲んだ支援が出来る様に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間にとらわれず一人ひとり、その日の体調に合わせて起床や食事、入浴等の支援をしております皆様自分のペースで昼寝や読書、俳句、編み物、体操等をして過ごされている。また、起床時間や就寝時間、入浴の順番等を希望される方は、その希望に応じた支援をするように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	原則本人が好みの服を選んでおられますが、季節や気候に応じて必要な支援を行っています。毎月理容師の訪問があり、本人や家族の希望する髪型にカットして頂いています。今年度は開催できませんでしたが年2回「わくわくおしゃれデー」を開き化粧を楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な料理の時は別の食材を用意し、好みの物を食べて頂いたり、飲み物のメニューを準備し選ぶ楽しみが持てるように工夫しています。また、咀嚼や嚥下に合わせた形態にして提供し、楽しみながら食事をして頂いています。食後は、食器拭き等の後片付けを一緒に行っています。	新型コロナウイルス感染拡大前は、毎月月末に外食に行ったり、出前を取ったり、お寿司を食べに行くのに同行したりしていた。毎食のみそ汁作りや、おはぎ作りなど、利用者も楽しみながら一緒に行っている。一人ひとりの嚥下機能に合わせて、ミキサーや刻みなどの食形態にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は業者に委託しており、栄養バランスの取れたものを提供しています。食事、水分摂取量は毎食記録し、摂取量が少ない時は水分補給や間食を勧めます。記録は栄養ケアマネジメントと併せて毎月の平均摂取量、栄養状態、体重、健康状態の把握にも活かしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	「食後には、忘れずに口腔ケアをしましょう」が口腔ケア目標です。歯科医師からの指導を得て、毎食後一人ひとりに合わせた介助方法で支援しています。また夜間は、定期的に洗浄剤を使用し清潔を保てるようにしています。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの生活習慣、排泄パターンや方法を把握してトイレ誘導を行い、本人の残存能力を活かし、気持ち良く排泄できるように努めています。また、尿意が乏しい方であっても立位が可能な方であればトイレ誘導を行い排泄の失敗を減らすように支援しています。	入居者日誌の記録を基に、排泄パターンに沿ってトイレ誘導を行い、おむつは最終手段としている。トイレの戸を閉めるなどプライバシーの配慮の他、パット交換時に、男性は嫌だという人には女性職員が対応するなど、一人ひとりの思いも尊重している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、起床時に牛乳を提供する他、随時水分摂取を勧めている。またラジオ体操や立位や歩行運動、トイレでの腹部マッサージ等自力排便ができる様に支援しています。一人ひとりの排便の状況を把握し食後にトイレ誘導を行ったり必要に応じて下剤の調整等も行っていきます。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めています、その日の体調や希望に合わせて、柔軟に対応しています。また、プライバシーや羞恥心、本人の身体機能により介助する職員が交代することもあります。気持ち良く、安心して入浴して頂けるように努めています。	同性介護の希望にも対応し、体調や気分に応じ日を変更するなど柔軟に対応している。重度な入所者も男性職員が2人で対応し入浴している。入浴を嫌がる入所者には、八尾の湯や、入浴剤、ゆず風呂など、気持ち良く入っていただけるよう職員が工夫している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間は決めずに、その日の本人の体調や様子、生活習慣に合わせて休んで頂く様に努めています。また就寝時は「おやすみなさい」の声掛けを行うと共に泊りの職員がいる旨を伝え安心して休めるように支援しています。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴や薬剤情報により入居者一人ひとりの薬について把握しています。処方変更になった時は体調や様子を家族に伝えています。また、服薬の変更により日常生活に支障が生じた時は医師に連絡し、適切な種類や量の薬を処方してもらえ体制を整えています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力や生活歴を活かして洗濯物畳みや新聞たたみ、食器拭き、花を生ける等の役割を持ってメリハリのある生活を送れるように努めています。また、俳句や編み物、読書、散歩等の趣味も自由に楽しんで頂けるように支援しています。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段から玄関は施錠せず、希望があれば自由に外出できるようにしています。近隣の商店への買い物や町内行事への参加など地域交流、社会参加ができる様に努めています。今は外出が難しい状況ではありますが、感染症対策をした上で表の縁側で過ごして頂く等、外に出れるように支援しています。	コロナ禍ではあるが、近所の方とは、職員が間に入る等感染対策をした上で、施設の縁側に座りながら会話や花火をするなど、小規模なことから行っている。以前は行きつけの床屋に行ったり、服を買いに行ったりしていた。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、希望される入居者には財布や現金を持っていただいています。希望に応じて買い物に付き添ったり、自分で接骨院や外食の支払いをされる方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば事務所の電話を使用して家族に連絡を取ることができます。また、自分で携帯電話を所持しておられ、必要に応じて直接家族に連絡される人もいます。本人の希望で手紙や俳句の投函も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関口からリビングにかけて四季折々の花を飾り、入居者の心を和ませられるように努めています。また、女性職員が中心となり月々の花や行事の壁面装飾を作成し、季節の変化を感じて頂けるようにしています。	和モダンの雰囲気の中、入所者手作りの、毛糸で編んだ鮮やかな座布団が目を引き、共有空間を明るくしている。テーブルには、朝摘んできたバラが生けてあり、季節を感じさせる。ゆったりとした心地良く懐かしさも感じられる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりのその日の体調や気持ちを汲み取り、席替えをしたり気の合う方と過ごせるように支援しています。また、希望される方には少し離れたテーブルに座って頂いたり、居室で過ごして頂く等孤独を感じることなく一人で静かに過ごして頂けるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームの生活を今までの生活の延長と考え、本人、家族と相談し可能な限り愛用の家具や使い慣れた身の回りの品を持ち込んで頂いています。家具や道具は本人の使いやすいように配置し、居心地の良い居室や環境になるよう努めています。	居室も和風で落ち着いた色合いになっている。一人ひとり、思い思いに愛用品や身の回り品を部屋に置いており、それぞれ個性が活かされ尊重されている。夫婦で入居している家族もあり、今までの生活が自然に継続されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーであり、手摺が各所に設置されています。個人の居室やトイレ、お風呂等は、目に留まりやすいように目の高さに手書きの案内を設置しています。また、リビングには平行棒を設置しており、職員見守りの元入居者自らリハビリや運動ができる環境を整えています。		

## 2 目標達成計画

事業所名 グループホームおわら

作成日: 令和 2年 10月 28日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	豪雨、土砂災害など様々な大規模災害に見舞われている昨今、災害時における避難計画の見直しと地域との協力体制の構築に努める必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難計画の見直し。</li> <li>・危険を回避し事業所にとどまる場合も想定し、その対策、備蓄などを整える。</li> <li>・地域との協力体制を築く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の災害を想定した訓練を実施する。</li> <li>・命を守るための対策、備蓄の内容を検討する。</li> <li>・運営推進会議を通じ、地域への協力を呼びかける。</li> </ul>	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。